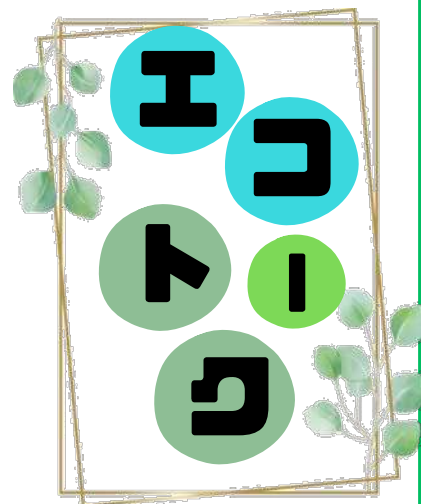


宇美町



(2020年広報11月号)



9月号では北極圏での地球温暖化の影響について書きましたが、もう一つ深刻な問題が9月下旬に発表されました。人工衛星による観測記録が始まった1979年以降の北極海氷の面積が、2012年に記録された339万km²に次いで今夏は374万km²となり、観測史上2番目に少なかったのです。

地球温暖化の影響は北に行くほど大きいとされていますが、国内でもやはり関東以北で大きいと伝えられています。この影響は私たちが住む宇美町の食卓にも確実に及びます。

主食であるコメの収量の減少と品質の低下が懸念されています。品質については現在でも各地で確認され、2040年代には白く濁る割合が増え、1等米の減少で経済損失が大きくなる見込みだそうです。

リンゴも平均気温が上がると色付きが悪くなり、鮭・鱒は日

本周辺の生息域が減少し、サンマは漁場が遠くなり、獲れても小ぶりであることが懸念されます。

今年は九州本土に上陸した台風がありませんでしたでしたが気温上昇により規模は大きくなり、移動速度は遅くなっています。熊本県南部では水害が発生していましたが、台風の影響で関東以北でも大雨による水害が増えました。

北極圏での現況や関東以北での顕著な影響は『遠いところで起きていることだ』と思いますか？地球温暖化防止と聞くと『遠いところでの現象』だと思われませんか？地球温暖化を一字替えて『地域温暖化』と考えてみませんか？これから50年・100年と生きていく人たちのことを思うと決して他人事ではないと思うのですが・・・

文責 福岡県地球温暖化防止活動

推進員 竹吉 栄隆